

令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

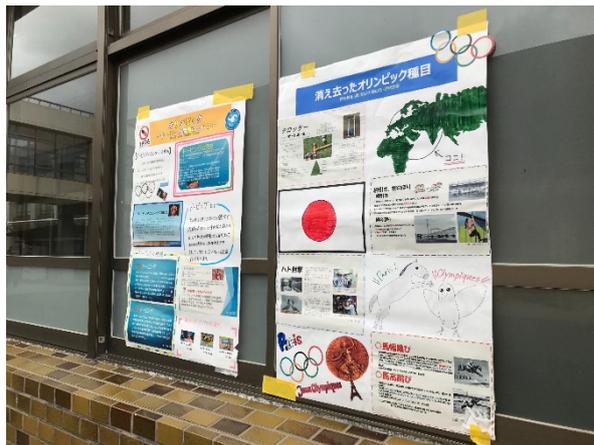
道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立北嵯峨高等学校 】

1 実践テーマ	【 I III V 】
2 実施対象者	本校生徒 京都府立聾学校高等部生徒
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育科) ② 行事名 (オリパラ教育講演会) ③ その他 (部活動【卓球部・陸上競技部・ソフトボール部】) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ パラリンピアンの実体験を直接聴く機会を通じて、スポーツの価値や共生社会の大切さを学び、今後スポーツとどのように関わっていくのか明確にさせることで、豊かなスポーツライフを継続していくためのきっかけにする。 ・ 今年に控えたオリンピック・パラリンピック東京大会への興味関心を深める。 ・ 障がいの有無にかかわらず、様々な人々とのスポーツ交流を通して他者を理解・尊重する資質や能力を身につけ、共生社会を実現する人材を育成する。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ パラアスリート（西家道代選手）による講演会（11月下旬）  <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴覚障害者との部活動交流（連携校：聾学校）（6月～7月）



- 自分を振り返る「自分史」の作成とプレゼンテーション
(10月中旬～1月/1月発表)
- オリンピック・パラリンピックについての広報新聞作成とプレゼンテーション (12月～1月)



6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> • パラアスリート（シッティングバレー日本代表キャプテン西家道代選手）の講演を聴き、あたりまえに感謝し何事もやる前から諦めずに、まずはやってみようというチャレンジ精神を持つことができた。障害のある人とよりよい共生社会を実現させるために、何ができるかを気付くきっかけとなった。 • 今まで自分が取り組んできたスポーツの歴史や競技特性を知り、そのスポーツを通じて自分がどのように成長したのかを振り返り、今後、豊かなスポーツライフを継続するためのビジョンを形成することができた。また、学校教職員や後輩を前にして発表する機会を設け、表現能力の向上を図ることができた。 • オリパラの調べ学習は、本校スポーツ科学コースの生徒が班ごとにテーマを設定し、図書館やインターネットから検索し独自のオリパラ新聞を作成した。オリパラの歴史やトップアスリートの成功体験や苦悩などを知ること、自身のスポーツに活かそうという感想があった。また校内に掲示し、より多くの生徒に見てもらうことでオリンピック・パラリンピックへの理解を深めることができた。 • 本年度は、教育講演会として全校生徒対象に実施することができ、スポーツの価値や共生社会の大切さを学ぶことができた。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	<ul style="list-style-type: none"> • 本校で実施したオリパラ事業は、学校HPなどで紹介し、地域や家庭にも広報を行った。 • 多くの事業を実施することでオリンピック・パラリンピックを身近に感じることができた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 他校種との交流については、相手校とのスケジュールを調整しながら、無理なく継続していきたい。もう少し交流の機会や相手校を増やしていく必要がある。その他にも日常的に地域社会と結びつく活動を実施していきたい。 • 障がいのある人と安全にスポーツ交流するために、生徒も教員もより専門的な知識が必要であり、綿密な打ち合わせが必要である。 • 本事業を年度当初に日程調整や計画ができれば、さらに事業を充実させることができるのではないか。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • オリンピック・パラリンピックが身近に感じられるよう、事業内容を再考しながら、継続した事業を展開していきたい。